

白崎万葉公園

白崎海岸の石灰岩形成は、白崎万葉公園内に刻まれた歌の中で称賛されている。少なくとも 8 世紀以降、石灰岩露頭は歌人たちに閃きを与えており、現存する日本最古の歌集である「万葉集」の中で言及されている。

白崎万葉公園内の 2 つの石碑には「和歌」が刻まれている。これらの石碑は、紀伊水道や岬に沿って海から突き出た石灰岩の方を向いている。駐車場から一番近い石碑には、701 年に詠まれた和歌が刻まれた青銅製の飾り板が設置されている。その「和歌」は、石灰岩の美しい風景を読んだ歌であり、息をのむほど美しい海岸線の景色をもう一度眺めたいと願う、詠み人知らずの歌である。文武天皇（697-707）が紀伊国（現在の和歌山県）を訪れた際に詠まれた 13 首の歌のうちの 1 首である。文武天皇は大勢のお供を従えて旅していたのであろう。和歌の文言から、一行は石灰岩の岬を船で渡ったことが分かる。

現代歌人、岡野弘彦（1924 年生まれ）による歌を特徴とする石碑がある。石灰岩形成が夜明けの最初の光を浴びた穏やかな景色を詠ったものである。

「和歌」とは 5-7-5-7-7 を基調とする日本の古典歌の一種をいう。この形式は、10 世紀の選集の序文の中で、「人の心を種として、万の言の葉とぞなれりける」と記述されている。「万葉集」では、およそ 4,500 首もの和歌が 20 巻に及んで編纂されている。その多くは、自然界、移りゆく四季、愛や敗北など人生の出来事により呼び起こされた感情を詠ったものである。